

## 【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 23-2  
補助事業名 平成23年度 安全・安心な情報を視聴者に合せ提供するシステム開発  
補助事業  
補助事業者名 一般財団法人ニューメディア開発協会

### 1 補助事業の概要

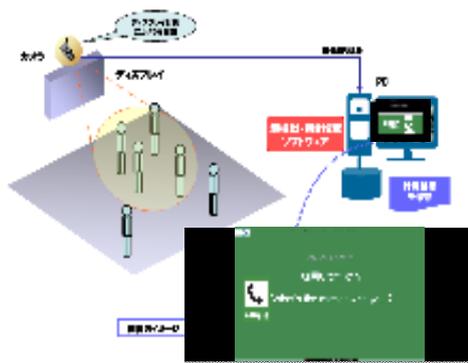
#### (1) 事業の目的

地方自治体や各種施設において、誰でも見やすい・わかりやすい案内板（公共サイン等）の整備は重要な課題となっている。しかしながら、子供から高齢者まで様々な年齢の人、さらには弱視者のように制約を抱える人の全てに対して見やすく・わかりやすい表示を行うのは難しいため、結果として安心・安全の情報が伝わらない可能性がある。この課題を解決するため、画像センサーおよび視聴者認識技術とデジタルサイネージを組み合わせ、視聴者の属性および視聴態度に応じた表示を行う電子案内板の実証システムを開発し、合せて視聴者の属性や視聴態度に応じた表示コンテンツの最適化につき研究する。この電子案内板の実証システムにより、視聴特性に近い状況で実証実験を行い、その有効性を検証する。

#### (2) 実施内容

##### ① 安全・安心な情報を視聴者に合せ提供するシステム開発

ビデオカメラの画像から年齢・性別を推定する技術、顔画像から感情を推定する技術、特定人物の追跡技術等を組み合わせた『視聴者測定技術』をデジタルサイネージに適応し、どのような視聴者が、どのように視聴しているかを判別し、それに応じて表示コンテンツを変更できる『電子案内板』の実証システム（プログラム）を開発した。合せて視聴者の属性や視聴態度に応じた表示コンテンツの最適化につき研究した。この電子案内板の実証システムを使い実証実験を行いその有効性を検証した。実証実験は、実際の利用環境に近い人ごみのある環境を使い、対象者も一般の利用者を想定し8歳から65歳の26名で行った。その結果、実証システムが人ごみのある環境で安定的に性能を維持し稼動することが確認でき、また実験参加者へのアンケートから目標を上回る81%の満足度を得た。



電子案内板実証システム構成図



電子案内板実証システム画面

## 2 予想される事業実施効果

今後、ネットワークインターフェースや表示コンテンツの標準化作業が進むことにより、商業用として設置しているデジタルサイネージ機器に近隣での災害や緊急性、視聴態度によって、表示コンテンツを（商業広告から緊急情報等に）切り替えることで、公的な『電子案内板』としてネットワーク型の公共情報の配信が期待できる。さらに、このような高度化された『電子案内板』は安全・安心に資するのみならず、地域社会の新たなヒューマンインターフェースとして、特にパソコンやインターネットを始めとする情報・通信技術の利用に困難を抱える人に対する情報提供手段として活用できる可能性がある。

## 3 本事業により作成した印刷物等

該当なし

## 4 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 一般財団法人ニューメディア開発協会（イッパンザイダンハウジンニューメディアカイハツキョウカイ）

住所： 〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町3番2号リブラビル

代表者： 理事長 岡部 武尚（オカベ タケヒサ）

担当部署： 総務グループ長（ソウムグループチョウ）

担当者名： 馬場 宏允（ババ ヒロマサ）

電話番号： 03-6892-5030

FAX： 03-6892-5029

URL： [www.nmda.or.jp](http://www.nmda.or.jp)